

人工知能戦略本部  
(第3回) 議事概要

日 時：令和7年12月19日（金）10:20～10:30

場 所：総理大臣官邸4階大会議室

出席者：別紙のとおり。

議 題：

- ・A I法に基づく基本計画（案）及び指針（案）について
- ・その他

議事要旨：

- 小野田人工知能戦略担当大臣から議題について説明が行われた。
- 審議の結果、A I法に基づく基本計画（案）及び指針について、原案のとおりに決定された。
- 出席者からの発言は以下のとおり。
  - ・林総務大臣から、「始めに、人工知能戦略本部が設置されてから短期間で人工知能基本計画（案）等をまとめていただいた有識者の皆様及び事務局に感謝申し上げます。A Iは生産性の向上や労働力不足の解消など、様々なメリットをもたらす一方、外国製の生成A Iへの過度な依存を避けるために日本固有の知識に強みを有する信頼できるA Iの開発力の強化や、国際的なガバナンスの形成等の対応が必要であると考えております。今般、まとめていただいた基本計画の中には、総務省の施策として、例えば、①A I学習用の日本語データの整備・提供、信頼できるA Iの評価技術の開発、②「広島A Iプロセス」の推進等、A Iガバナンスに関する国際的ルール形成の主導、③A I等による偽・誤情報に対応するための対策技術の開発、④A Iのセキュリティ確保に向けた検討等が盛り込まれております。総務省としては、引き続きこうした取組を通じて「世界で最もA Iの開発・活用がしやすい国」を実現させるべく、貢献してまいります。」といった発言があった。
  - ・茂木外務大臣から、「A Iは、我が国の経済・社会の発展の基盤となる技術であり、安

全保障にも直結する外交上重要な分野です。外務省として、A I 基本計画で示された外交面の取組を全力で進めてまいります。来年2月のインド主催A I インパクト・サミットや、3月の広島A I プロセス・フレンズグループ会合も念頭に、引き続き、「広島A I プロセス」の普及・拡大を通じて、国際協力や国際協調を主導していきます。また、同志国との連携や、インドやA S E A Nをはじめとするグローバルサウスとの共創を通じて、「安全、安心で信頼できるA I」エコシステムの構築を目指していきます。さらに、先月、全ての大使館・代表部等において指名した「A I 政策担当官」を効果的に活用し、A I に関する各国の動向の把握等にも努めます。引き続き、外務省として、あらゆる外交機会や在外公館を活用して、「安全、安心で信頼できるA I」の実現に向けて取り組んでまいります。」といった発言があった。

- ・松本文部科学大臣から、「今般策定される人工知能基本計画及び人工知能関連技術の研究開発及び活用の適正性確保に関する指針を踏まえ、「危機管理投資」・「成長投資」の中核として、これまで以上にA I 戦略を推進していくことが極めて重要であると認識しております。文部科学省としては、急速に進展する国際潮流と我が国の勝ち筋を見据え、世界を先導する革新的イノベーションの創出のため、科学研究にA I を利活用する「AI for Science」の取組やA I 研究開発力の強化等を推進してまいります。また、A I の利活用や研究開発を担う人材の育成・確保を推進するとともに、初等中等教育段階において情報活用能力の向上を図るなどA I リテラシーの向上や、A I の活用を通じた教育課題解決に取り組んでまいります。人工知能基本計画及び指針を踏まえ、イノベーション促進とリスク対応が両立した「世界で最もA I を開発・活用しやすい国」の実現に向けて引き続き貢献してまいります。」といった発言があった。

- ・上野厚生労働大臣から、「厚生労働省としては、A I の活用が国民の健康と暮らしの向上に不可欠と認識しています。本日の人工知能基本計画（案）においても、医療、介護分野におけるA I の開発、実証、導入の促進、新薬開発の効率化に資する創薬A I の推進、個々の従業員や労働者に対するA I リ・スキリングの取組の支援、A I の進展に伴う雇用への影響を踏まえた包括的な対策の継続的な実施などが盛り込まれており、厚生労働省としても関係省庁と連携して必要な対応を進めていきます。令和7年度補正予算においても、医療、介護分野のA I の利活用に関する事業が盛り込まれており、まずは

速やかにこれらの事業を実施していくとともに、A I が進展することに伴う雇用の問題など、将来を見据えた課題についても検討していきます。」といった発言があった。

- ・鈴木農林水産大臣から、「農林水産分野においては、高齢化や人手不足が深刻であり、こうした中で、食料安全保障の確保等の課題に対応するためには、生産性を大幅に向上し、稼ぎにつなげていくことが重要です。このためには、スマート農林水産業の推進が重要であり、A I を活用することで、農業者等の判断を支援し、作業の効率化や高品質化などが可能となります。また、日本成長戦略会議で示された戦略分野の一つであるフードテック分野においても、例えば、植物工場については、緻密な環境制御による高効率生産や、生産者のニーズに合わせたオーダーメイドの栽培計画が可能になると期待しています。農林水産省においても、この後策定される人工知能基本計画を踏まえ、A I 活用を一層進めてまいります。」といった発言があった。
- ・赤澤経済産業大臣から、「人口減少に直面する我が国において、安全・安心な暮らしや経済成長を実現するためには、A I の普及が不可欠です。経済産業省では、これまで、「GENIAC」プロジェクトを通じたA I 開発力の強化を進めてきました。今後、日本が強みを持つ製造業や、高齢化・災害等の社会課題対応などにおける更なるデータの活用を促し、国際競争力のあるA I の開発・提供を促進してまいります。その際、多様な種類のデータに対応した基盤モデルを開発することで、高い品質のデータを安心・安全に活用する環境を整備し、フィジカルA I やA I ロボットの開発を推進してまいります。関係省庁とも連携しながら、世界で最もA I を活用している割合が高い国作りに貢献してまいりたい。」といった発言があった。
- ・酒井国土交通副大臣から「国土交通省では、災害の激甚化・頻発化、社会資本の老朽化、生産年齢人口の減少などの課題に的確に対応するため、今後策定される人工知能基本計画等に基づき、A I の利活用に積極的に取り組んでまいります。インフラ建設・管理分野に関しては、i-Construction2.0として、2040年度までに建設現場の人数を少なくとも3割減らし、生産性を1.5倍向上することを目指した建設現場の自動化・省人化等に、A I も活用し、取り組んでいるところです。特に、フィジカルA I について、令和7年度補正予算より、技術開発や実証に本格的に着手いたします。また、A I を活用し、造船

分野に関しては、次世代型造船ロボットの研究開発による造船能力の抜本的な向上、物流分野に関しては、自動化機器による倉庫内作業の省力化等を通じた中小物流事業者の労働生産性向上、公共交通分野に関しては、A Iを活用したバス運行管理の高度化等による地域交通D Xの推進等に向けて取り組んでいるところです。この他、行政事務の質の向上・効率化の観点から、省内におけるA Iの利活用についても積極的に推進してまいります。」といった発言があった。

- ・石原環境大臣から「環境保全の観点からも、A Iの利活用を推進することが必要である。炭素中立、循環経済、自然再興等において、生成A Iを活用し、国民・地方公共団体・企業等のニーズに即した情報発信を行うことにより、各主体の行動変容を促してまいりたい。また、A Iの活用拡大に伴い電力需要が増加することが見込まれるデータセンターについて省エネ設備等の導入を支援することにより、持続可能なA I関連技術の研究開発や活用に貢献してまいりたい。」といった発言があった。

- ・小泉防衛大臣から、「科学技術の急速な発展が安全保障の在り方を根本的に変化させており、A Iを活用した高度なデータ処理・分析を背景とした戦い方が顕在化しています。このような中、防衛省・自衛隊においても、指揮統制や無人アセットなどの分野においてA Iの活用を重点的に進め、意思決定の迅速化、自衛隊員の負担軽減や省人化・省力化を図り、防衛力の強化に取り組んでいるところです。また、こうした取組を効果的に進めるため、A Iの技術革新が民間を中心に進んでいることを踏まえ、防衛産業やスタートアップ企業等との連携強化も進めています。A Iは今や戦闘の帰趨を左右する重要な要素となっており、防衛分野へ積極的に取り入れるとともに、研究開発を通じ、A Iイノベーションの推進に貢献してまいります。」といった発言があった。

- ・松本デジタル大臣から、「A Iの社会実装の起点とするため、デジタル大臣として、政府自らが率先してA Iを安全・安心に利活用できる環境「源内」を来年度から各府省庁に広く展開することで、「ガバメントA I」を推進し、A I利活用の加速的推進を実現してまいりたい。また、各府省庁への展開に当たっては、官報など信頼できるA Iの学習に必要な政府共通データの整備を進めるとともに、国内のA I開発事業者や研究機関とも連携しつつ、行政実務に役立つ高度な生成A Iアプリケーションの開発を行うこと

で、省庁横断的な標準モデルを確立し、政府の業務の質の向上や効率化を推進してまいりたい。サイバー安全保障担当大臣として、A I 技術の進展に伴い、A I の安全性確保やA I を利用した攻撃への対応等が、新たなサイバーセキュリティ上の課題として認識されつつあることを踏まえ、関係省庁とも連携し、必要な対応を進めてまいりたい。」といった発言があった。

- ・あかま国家公安委員会委員長から、「A I が社会に大きな変革をもたらす中、治安の確保の観点からも、これに積極的に対応することが必要である。警察では、犯罪実行者募集情報の収集にA I を活用しているほか、匿名・流動型犯罪グループの実態解明にA I を活用すべく現在取組を推進しているところである。他方、A I を悪用して、不正プログラムを作成した事案等もあり、警察として、法と証拠に基づき厳正に対処しているところである。人工知能基本計画においては、警察活動の高度化のためのA I 利活用、A I を悪用する犯罪等への対処について記載されているところ、計画を踏まえた取組をしっかりと推進するよう、警察庁を指導してまいりたい。」といった発言があった。

- ・黄川田内閣府特命担当大臣から、「こども家庭庁においては、令和7年度補正予算等に基づく事業において、I C T・A I を活用したこどもの自殺リスクの早期発見等のための新たなアプローチの検討を開始するとともに、地方公共団体が運営する結婚支援センター等の会員のマッチング支援にA I を活用していくこととしています。本年3月には、こども・子育て分野での「生成A I の導入・活用に向けた実践ハンドブック」を作成し、自治体や子育て支援事業者等における生成A I の適切な活用を促しております。また、有識者及び関係省庁を構成員とする「インターネットの利用を巡る青少年の保護の在り方に関するワーキンググループ」では、生成A I による児童の性的ディープフェイクについても課題の一つとして整理されており、本年9月に関係府省庁連絡会議で取りまとめた工程表に沿った取組や検討を進めています。基本計画、指針を踏まえ、これらの取組を引き続き推進してまいります。」といった発言があった。

- ・城内内閣府特命担当大臣から、「「A I ・半導体」は危機管理投資・成長投資による力強い経済成長を実現する上で重要な戦略分野の一つです。投資促進、国際展開、人材育成、産学連携等に加え、官公庁による調達や規制改革など需要の創出・拡大につながる

措置を含め、総合的な支援策を検討してまいります。規制・制度改革により、民間投資と技術革新を促進し、企業が将来にわたって挑戦できる環境を整備することは、政府の重要な役割です。規制改革推進会議での審議を進め、時代や環境の変化、A I の進化に合わせ、例えば医療等の分野において、必要となる利用者目線の規制・制度改革を徹底してまいります。安全と利便性を両立させ、誰もが安心して暮らし、挑戦できる社会を実現してまいります。」といった発言があった。

○ 高市内閣総理大臣より、以下のとおり発言があった。

- ・本日、日本で初めてとなる「人工知能基本計画（案）」を決定しました。A I は、産業競争力や安全保障に直結し、我が国の国力を左右します。
- ・世界がこぞってA I の開発、活用を行う中で、我が国も取組を加速する必要があります。人手不足、防災をはじめ直面する様々な課題解決のため、日本社会全体でA I を徹底的に活用してまいります。
- ・我が国が持つ質の高いデータを活かし、「信頼性」という日本の価値を備えたA I を戦略的に開発していきます。今こそ、官民連携で反転攻勢をかける時です。「信頼できるA I 」による「日本再起」を実現するため、7点について指示します。
- ・第一に、「ガバメントA I 源内」の徹底活用です。来年5月から10万人以上の政府の職員が活用できるようにします。A I 源内の活用により、創造的に業務を行い、国民の皆様「信頼できるA I 」の意義を示して下さい。
- ・第二に、「A I セーフティ・インスティテュート」の抜本的強化です。A I の安全性に対する不安が高まる中、英国並みの200人体制を目指して、小野田大臣と赤澤経済産業大臣は、全省庁、産学から人材を集結させ、A I セキュリティに万全を期して下さい。
- ・第三に、A I ロボットをはじめとした「フィジカルA I 」に不可欠な「信頼できる」国産の汎用基盤モデルの開発です。赤澤経済産業大臣は、質の高い産業データを日本の競争力の中核に位置づけ、意欲ある企業としっかりと連携し、開発を進めてください。
- ・第四に、「信頼できるA I 」による社会課題を解決できるサービスの開発・導入です。今般の経済対策で、4000億円以上のA I 関連施策を措置したところです。これらを活用して、地域や中小企業の成長戦略を実現するとともに、世界各国にサービスを展開して下さい。

- ・第五に、「信頼できるA I」を世界とともに創りあげるため、「A I サミット」を可能な限り早期に日本で開催すべく、関係省庁を挙げて、取組を進めてください。
- ・第六に、「信頼できるA I」を創る官民投資を日本成長戦略における「危機管理投資」として、力強く推進してください。政府としては、投資の予見性を高めるため、当面、1兆円超をA I 関連施策の推進に投資してまいります。また、大胆な投資促進税制を創設し、研究開発税制を深掘りします。これらの政府のコミットを、それぞれが所管する企業の皆様と共有し、政府の取組に呼応していただきA I 投資を強力に推進してください。
- ・結びに、A I を巡る動向の変化は非常に速いです。小野田大臣は、今回の計画に基づく、官民の取組を直ちに実施するとともに、来年の夏を目指して、投資目標、制度改革、人づくり、データ戦略などを含む官民投資ロードマップを盛り込む形で、「人工知能基本計画」を更に充実させてください。以上です。よろしくお願いします。

(議了)

(別紙)

## 出席者一覧

高市 早苗	内閣総理大臣
木原 稔	内閣官房長官
	沖縄基地負担軽減担当
	拉致問題担当
小野田 紀美	経済安全保障担当大臣
	外国人との秩序ある共生社会推進担当
	内閣府特命担当大臣（クールジャパン戦略 知的財産戦略 科学技術政 宇宙政策 人工知能戦略 経済安全保障）
林 芳正	総務大臣
平口 洋	法務大臣
茂木 敏充	外務大臣
松本 洋平	文部科学大臣
上野 賢一郎	厚生労働大臣
鈴木 憲和	農林水産大臣
赤澤 亮正	経済産業大臣
	原子力経済被害担当
	G X 実行推進担当
	産業競争力担当
	国際博覧会担当
	内閣府特命担当大臣（原子力損害賠償・廃炉等支援機構）
石原 宏高	環境大臣
	内閣府特命担当大臣（原子力防災）
小泉 進次郎	防衛大臣
松本 尚	デジタル大臣
	デジタル行財政改革担当
	行政改革担当



	国家公務員制度担当
	サイバー安全保障担当
	内閣府特命担当大臣（サイバー安全保障）
牧野 たかお	復興大臣
	福島原発事故再生総括担当
	防災庁設置準備担当
	国土強靱化担当
あかま 二郎	国家公安委員会委員長
	領土問題担当
	内閣府特命担当大臣（防災 海洋政策）
黄川田 仁志	内閣府特命担当大臣（沖縄及び北方対策 消費者及び食品安全 こども 政策 少子化対策 若者活躍 男女共同参画 地方創生 アイヌ施策 共生・共助）
	女性活躍担当
	共生社会担当
	地域未来戦略担当
城内 実	日本成長戦略担当
	賃上げ環境整備担当
	スタートアップ担当
	全世代型社会保障改革担当
	感染症危機管理担当
	内閣府特命担当大臣（経済財政政策 規制改革）
岩田 和親	内閣府副大臣
酒井 庸行	国土交通副大臣
高橋 はるみ	財務大臣政務官
尾崎 正直	内閣官房副長官
佐藤 啓	内閣官房副長官
露木 康浩	内閣官房副長官
阪田 渉	内閣官房副長官補

河邊 賢裕	内閣官房副長官補
小林 麻紀	内閣広報官
濱野 幸一	内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局長
福永 哲郎	内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局統括官